

## 平成 30 年度鈴鹿工業高等専門学校入学式（学科） 校長式辞

本日、春の香りが満ち溢れるこの良き日、平成 30 年度鈴鹿工業高等専門学校入学式を挙げてきますことを、大変嬉しく思います。難関を突破し、入学許可を受け、名実ともに晴れて本校の学生となった学科新入生 214 名、留学生 2 名の併せて 216 名の学生のみなさん、誠におめでとうございます。本校を代表して心からお祝い申し上げますとともに歓迎いたします。

こうして新しい制服に身を包み、初々しさに満ちあふれ、まばゆいばかりの新入生の姿をみると、校長としても身の引き締まる思いです。私以上に、この良き日を心待ちにされていた保護者の方にとっては、さぞかし感慨無量のこととご同慶申し上げます。私ども教職員は託された責任の重さを改めて認識し、ご期待にこたえるべく気持ちを新たにしているところです。

さて、本校は、1962 年、国立高専一期校 12 校の一つとして創立し、すでに半世紀を経て、次なる 50 年に向けて「進化する高専」として歩み始めたところです。高専は当初は中堅技術者の養成を目的に創設されましたが、時代の変化と社会の要請に応え、15 歳の中学卒業生を受け入れる 5 年一貫教育を基本としつつも、大学編入、専攻科の設置、学校の再編統合などを進め、高等教育機関としての性格をより強め、実践性と創造性を備えた地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の養成に努めるようになりました。

鈴鹿高専においては、当初、機械工学科、電気工学科、工業化学科の 3 学科体制で船出しましたが、いくつかの改組・拡充を経て、現在では、学科は機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の 5 学科により構成され、学科卒業生が進学する専攻科には総合イノベーション工学専攻が設置されています。現在、学科生 1064 名、専攻科生 59 名、合計 1123 名、内留学生 8 名となっています。さらに、本校からは、今までに約 9000 人の卒業生が巣立っていきました。卒業生の活躍ぶりは、ものづくりを担う企業の社長や幹部として、大学・高専等の教員・研究者として、国内外において活躍する人材として、高く評価されています。

さて、本校は、知・徳・体 三育の全人教育を建学の精神とし、勉学、海外研修、インターンシップ、学会での研究発表、そして体育系や文化系、各種プロジェクトなどに関する課外活動、さらには高専祭やオープンカレッジなどの各種イベントに積極的に取り組んでいます。各種学会での研究発表会やエコカー、ロボット、プログラミングなどのコンテストでの受賞、全国高専・高校体育大会や文芸大会での数多くの優勝・入賞など、様々な分野からの表彰は鈴鹿高専が全国的に高い評価を受けていることを示しています。

皆様にはこの素晴らしい鈴鹿高専の伝統を誇りに、さらに一層発展させていただきたいと思います。そして、「地域に根差し、世界に羽ばたく、クリエイティブな鈴鹿高専」づくりに、さらに言えば地域から信頼される鈴鹿高専に向けて努力していただきたいと思います。それには、学生の本分である学業を基本に、課外活動、社会貢献などを通じ、自分を見つめ、そして自分をつくりながら、着実に知徳体がバランスよく発達するよう努力することが必要かと思えます。皆さんは未来の技術を担うエンジニアの卵です。すべての人が自然と共生しながら幸せに豊かに暮らせる持続可能な社会づくりに貢献する人に育ってほしいと思います。

さて、皆さんが社会の中核として活躍する時代は、どんな時代でしょうか。現在からはとても想像もつかない時代になるかもしれません。急速に進化する AI やロボット関連技術、また 3D プリンターに代表される製造方法の革新、これらをインターネットのもとに取り込んで、ものづくりの社会を大幅に変える IoT 技術も発展してきました。私の専門の化学合成においても

フロー・マイクロ合成など新しい潮流が起こっています。フロー・マイクロ合成とはマイクロメートルオーダーの細い管の中に液を流しながら物質を合成する方法です。秒からミリ秒オーダーの反応時間を正確に制御できるのでフラスコでは不可能な反応が可能になります。もうすでに、この反応技術は一部の医薬品の工業的製造にも利用されています。また、合成ロボットを使った化学合成や、AIによる合成法の開発なども行われるようになってきました。まさに、新たな産業革命の時代に入ってきたといえます。

このような時代を迎えて、皆さんには、創造力をもった技術者や研究者になっていただきたいと思います。すべての人は創造力をもっています。しかし、それをさらに高め、磨いていく必要があります。そのためには、どうすればよいのでしょうか。私は、イマジネーションする能力を磨くことが重要だと思います。イマジネーションとは未知のこと、未だ起こっていないことに思いをめぐらすことです。あることが起これば次にどんなことが起こる可能性があるのだろうか。あることを見つければ、その周辺にはどんなものがあるのだろうか。そういうふうにして、小さなことでもどんどんイマジネーションを膨らませてください。そういう習慣をつけることによって創造力が高まります。クリエイションはイマジネーションからです。

また、私たちには真に社会に役立つ創造性が求められています。そのためには、社会のことや歴史や哲学を勉強することが必要です。歴史には過去の人々の人生が詰まっています。哲学には人生の知恵が詰まっています。歴史や哲学は、私たちが進むべき道を照らしてくれます。また、創造性を発揮するためには体力と気力を鍛えることも大切です。また、時には立ち止まって心を休めることも必要です。スポーツと芸術は私たちに生きる力と喜びとを与えてくれます。

最後に、5年間の高専生活を送る上で大切にしていきたいことを三つ述べ締めくくりたいと思います。

一つ目は、学ぶ方法を身につけるといことです。学校で学んだ知識や技術だけでは、将来の変化に対応できません。卒業後も常に新しい知識や技術を学ぶ必要があります。そのために、高専での勉強を通じて、学ぶ方法をぜひ身につけてください。

二点目は、5年一貫教育の利点を生かすということです。高専は高校とは違います。大学入学に向けた受験勉強はありません。15歳から5年間にわたり科学的思考を備えた実践的で創造的な技術者の養成を目指した系統だった教育を受けます。その特長を生かして、とくに中だるみの無いように気をつけて、がんばって勉強してください。

三点目は、国際的なコミュニケーション能力を身につけることです。そのためには英語を読み、書き、聞き、話す能力を高めることが必要です。科学的思考を備えるとともに国際的なコミュニケーション能力を身に着けた実践的で創造的な技術者になってください。

私たち教職員は、皆さんの持っている力を引き出すよう頑張ります。あなた方もその期待にこたえ、自らを鍛えてください。皆さんのこれからの学校生活が、かけがえのない青春にふさわしい、充実した実りある時になることを祈って、お祝いと歓迎の言葉といたします。

平成 30 年 4 月 5 日

鈴鹿工業高等専門学校長  
吉田 潤一